

---

# スピン・オフ小説 あんたはすごい!

水本爽涼

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

スピン・オフ小説 あんたはすごい！

### 【Nコード】

N3047X

### 【作者名】

水本爽涼

### 【あらすじ】

時間研究所に登場した塩山満のスピン・オフ小説。

## 第17回

社員駐車場で腕時計を見ると六時前である。いくらなんでも早過ぎるか…と思った私は、例の二十四時間営業のファミレス、A・N・Lで夕食を軽く済ませようと考え、事実そうした。A・N・Lで腹を満たして、出たのは七時過ぎだった。この時間なら最悪でも開店準備の札は出ている筈だ…と踏んで、みかんへ向かった。

「おお、やっぱり少し早く着いたな…。だけど、開いててよかった…」

案の定、店には開店準備の札が掛けられていて、ドアは開いていた。

「なんだ、満君か…。今日は早いわねえ」

早希ちゃんは店内の椅子やテーブルを拭きながら、そう云った。

「なんだ、はご挨拶だな。この前の話が気になったからな…」

私は弁解がましく返していた。そこへママが奥から顔を出した。ママが出てくるのは、いつもワントンポ遅れたこのタイミングである。

「声がしたから…、やっぱり満君か。この前は…あつ、そうそう、一昨日おとといだったわね」

ママが現われたからでもないだろうが、早希ちゃんは、ひと通り店内を見回した後、モップと布巾、それにポリバケツを片づけ始めた。この日は初めからカウンター席へ座った私は、本題へと入った。

### PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3047x/>

---

スピン・オフ小説 あんたはすごい！

2011年12月7日00時57分発行